

# 世界に誇る碧南市を目指して

ねぎ たまさのぶ  
へきなん 碧南市長(愛知県) 榎宜田政信  
Masanobu Negita



## 一つの時代の終わりに

いよいよ平成の時代が終わりを迎えようとしています。今年に入り、これからの時代に思いをはせていたところに悲しい知らせが飛び込んできました。哲学者梅原猛さんの訃報です。

梅原さんには、碧南市にある哲学をテーマとした施設「哲学たいけん村無我苑」の名譽村長を務めていただいております。平成3年より毎年1回は、本市にお越しいただき、時々の旬なテーマで講演をしていただいております。平成25年には、梅原さんが国立能楽堂開場30周年および世阿弥生誕650年を記念し、新たに書き下ろしたスーパードラマ「世阿弥」の公演を本市で行いま



静かな環境に身を置き、心を落ち着かせることができる「哲学たいけん村無我苑」

した。この能は米寿を迎えた梅原さんの肉体に世阿弥が乗り移り、夢幻能のように、世阿弥親子の情愛を描き出した梅原さんの「魂の能」であり、伝統芸能に新風を巻き起こした作品でありました。

「哲学たいけん村無我苑」は、日本全国に向けて「無我愛」を主唱し、この地に居を構えた宗教思想家・伊藤証信氏のご遺族から土地などを本市へ寄付いただいたことを契機に、全国的にもまれな哲学をテーマとする「世界に誇る」施設として誕生しました。近隣には、浄土真宗中興の祖と言われた蓮如上人が西三河地方の布教の拠点として建立した応仁寺もあります。

梅原さんは、「哲学というものは現代という時代において人間がどう生きるべきかを明らかにする学問です」と述べ、日本の仏教哲学を中心とする人類救済の哲学を生み出そうと必死で探求しておられました。平成の最後の年に人生の最期を迎えられ、ひと時代の終わりを感ぜずにはいられません。ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、梅原先生のご功績をしのび、謹んで哀悼の意を表します。

## 歴史のロマンを感じる

私は歴史を調べるのが好きで、市の広報誌やホームページなどで「世界に誇る」碧南ゆかりの歴史エピソードを紹介しています。その中でも特に力を入れているのが、



徳川家康の幼名「竹千代」命名の寺として知られる称名寺

メジャーな人物・歴史とのかかわりです。まずは、徳川家康です。家康から9代前の有親は、8代前で松平家の始祖となった親氏とともに関東より時宗の旅僧として碧南市大浜にある称名寺に滞在し、有親は45歳に称名寺で没しました。称名寺での滞りがなければ、徳川の歴史はなかったかもしれないわけです。家康の3代前の信忠も称名寺で没しています。また、家康の父の広忠は、称名寺で家康の幼名竹千代を名付けました。

次は、日本文学の代表作家である永井荷風と三島由紀夫です。この2人は、碧南市大浜で生まれ、その後、家康の伊賀越えや小牧・長久手の戦いで手柄を立て、日光東照宮の造営奉行として豪華な社殿を完成さ

せ、茨城古河で7万2千石の大名となった永井直勝の子孫です。直勝と大河内秀綱の次女の由利姫との間に生まれた永井正直が荷風の12代前の祖先であり、直勝と阿部正勝息女との間に生まれた永井尚政が三島の11代前の祖先です。

永井直勝といえば、東京のJR中央線信濃町駅近くに浄土宗の一行院というお寺があります。このお寺によると、

「(前略) 永井直勝は、現在の信濃町にあたる場所に下屋敷を拝領していました。

ちなみに信濃町という地名は、ここに屋敷を有していた永井家宗家が代々「信濃守」



毎月1日号の「広報へぎなん」にコラムを執筆し市民と情報共有

を称していたことに由来します。当初は信濃殿町、信濃原と呼ばれ、それがやがて信濃町になりました。(後略)」

信濃町の名の由来に地元の偉人がかわっていたとは！まさにロマンを感じます。ささいな事かもしれませんが、自分の身の回りとかかわりが分かると、愛着がわき、ますます関係を深く掘り下げたくくなります。

### 座右の銘 「敬天愛人」

「敬天愛人」(天を敬い人を愛する)とは、明治維新時に活躍した日本史上最も私心の無い政治家であり、思いやり深い人であったとの評価を受けている西郷隆盛が生涯守りぬいた言葉です。

座右の銘となったきっかけは、若いときから歴史小説が好きで、吉川英治の『宮本武蔵』、山岡壮八の『徳川家康』、司馬遼太郎は、『竜馬がゆく』をはじめ、吉田松陰を題材とした『世に棲む日日』、西郷隆盛を題材とした『翔ぶが如く』、日露戦争時に活躍した秋山兄弟を描いた『坂の上の雲』などから多くの事を学びました。これらの影響の中で「敬天愛人」が私の座右の銘となりました。

西郷に心服していた旧庄内藩士達が、西郷の教訓などをまとめた『南洲翁遺訓集』には次のように書かれています。

「道は天地自然の物にして、人はこれを

行うものなれば、天を敬するを目的とす。天は我も同一に愛し給ふゆえ、我を愛する心を以て人を愛する也。」

市議会議員になった時から「良識と思いやりのあふれる市政を目指して」という政治理念を掲げています。これは、「敬天愛人」の別表現でもあり、「良識」とは歴史を経て変わることもない道理、すなわち、「天」であり、多くの人の議論によって練られた結論でもあります。なお、「天を敬う」には、「自然万物に感謝する」という気持ちも含まれます。私もかくありたいと、常に自分の心にとどめ、言動の指針としている言葉です。

私は、現在、「世界に誇る碧南市を目指して」をテーマに市政に取り組んでいます。本市にはその歴史や風土を礎として、先進的な事業、類まれな施設、伝統的な産業が数多くあります。私は、これらの事物に磨きをかけ、「碧南市は世界に誇れるぐらいの素晴らしいまちである」と、多くの市民に思ってもらうことこそが、「世界に誇る碧南市」になる道筋だと考えます。



榑宜田政信市長